

C'n

vol.27

SCENE  
NEWS

CHIBA CITY MUSEUM OF ART



クロード・モネ 《積みわら》  
1885年 大原美術館蔵

大原美術館  
所蔵名品展

# 小学校・中学校からのお客さん

先日、嬉しい光景を目撃しました。学芸員室や事務室のある10階のエレベーター・ホールで、小さな男の子と女の子とが、教育・普及担当の二人の館員に、お行儀良く礼をしながら何かを渡しているところでした。後で見せてもらった、それは、「千ば市びじゅつかんありがとうございました」とタイトルをした、手作りの感謝状でした。写真を貼り、色を付けた、可愛い体裁のもので、おそらくは担任の先生のご指導によるものに違いありません。6人の寄せ書きの一つには、丁寧に書いたことが一目で分かる字で、次のように記されていました。

「びじゅつかんで、青くひかっているすうじや、きれいな絵をみせてくれたりして、ほんとうにありがとうございました。2-1 二村ひでき」

市内の本町小学校2年1組の生徒6人が、「町の探検」という授業の一環で当館をたずねてくれた際、開催中の「2003年アートの旅」という自主企画展を見学し、宮島達男の「地の天」をはじめとする主として現代美術を使ったアートの旅を体験した反応です。二村君以外の5人もみな、暗い部屋で青い数字が点滅する宮島達男の「地の天」には感激していた様子で、現代美術には大人よりも小学生の方がかえって素直に入っていけるようだというのが、多少の説明を加えながらお相手をした館員の感想でした。

「びじゅつかんの中のくらいへやのなかは、ゆかがピカピカひかかって、とてもきれいでした。またきたいです。市はらかなね」と書いてくれたかなねちゃん、是非またおいで下さいね。

私が館長に赴任してから5年目になりますが、これまでもっとも不満に思っていたのは、高校生以下の生徒の姿を、あまりギャラリーに見かけられないことでした。せっかく良い企画を実現しても、明日の日本や世界を背負う若い人、若い人たちに見てもらえないとは、なんともったいないことでしょう。どうかして学校や家庭とのつながりを密接にしたいものだと、

これまでも少しずつは試みてきたのですが、ようやく今年から学校との連携が円滑になり、館をあげての取り組みを本格的に進められるようになりました。

小学校、中学校の皆さんを対



宮島達男《地の天》1996 千葉市美術館蔵

象とした「2003年アートの旅」展は、本職のアーティストや学校の先生たち、それに千葉大生の有志にも協力をいただいで、様々なワークショップを展開しています。すでに終わった企画もありますが、現在進行中の「中学芸員奮闘中」には、是非とも多くの方々に注目していただきたいものです。

千葉市美術館が所蔵する美術品を使って、市内三つの中学校（葛城中学校、都賀中学校、幕張中学校）の美術部員の皆さんが自主的に展示を組み立てるもので、テーマに新

鮮な切り口を見せ、ギャラリーの一室をすっきりと構成すべく奮闘中です。第1回は「音浴的空間」と題して、音楽のイメージを美術による空間へとふくらませてくれています。お付き合いをしてくれた大学生や学芸員も、初心に戻って美術と向き合えたようで、お疲れのご様子ながら充実感を覚えてくれているようです。第1回展の出来映えはプロはだしの合格点をさしあげたいものだと、つくづく感心させられたものでした。

待望の「大原美術館所蔵名品展」も始まります。この夏休み、小学生や中学生を含めた多くの観客で館内がにぎわってくれることを、心から願っています。

館長 小林 忠



中学生の企画による「音浴的空間」展示風景



ピエール＝オーギュスト・ルノワール《泉によるおんな》1914年 大原美術館蔵

# 大原美術館散歩

1930年の開館以来、倉敷で活動を続けている大原美術館は、これまで度々「出開帳」を行い、全国にそのコレクションを示してきた。それは、ゴッダンの《かくわしき大地》(1892)や関根正二の《信仰の悲しみ》(1918)であったりする。今回、当館で大原美術館の所蔵作品展が開催されることを公表した直後から、各地の美術愛好家のかたがたから、それぞれの「お気に入り的一点」が出品されるかどうか、という問い合わせを電話でしばしば受けている。残念ながら、問い合わせのあった全員の希望に応えるには結局のところ美術館をまるごと持って来なければならない。当方としては皆さんのお目当ての作品が今回展示される場合は誇らしく応対し、そうでなければ平身低頭、時間と旅費を作って倉敷に行かれることをお薦めしている。

また、展覧会を開催した後、来場された方から「倉敷で観た時にはもっと良く見えた」という質問(あるいは抗議?)があることは充分予想される。先手を打って言ってしまえば、これは倉敷という街に旅行して、大原美術館という施設で観たからこそ、あなたの思い出の中で作品が輝いているわけであって、作品はもとより我々の責任ではありません。これは例えば立派な場所でお見合いをして相手に好印象を持って、後日近所



アルベルト・ジャコメッティ  
《キュビズムのコンポジション - 男》  
1926年 大原美術館蔵 ©JVACS, Tokyo, 2003

の喫茶店で会ってみたらそうでもなかった、といった事例に置き換えれば御理解いただけるだろう。それに、そんな場所で好きになった方が案外長続きするんじゃないだろうか。も一度言い換えれば、大原美術館の「出開帳」は作品そのものと向き合う、いい機会なのである。

\*

ところで、ちょうど夏休みだから千葉で名品展も観たことだし、倉敷にでも行ってみようか、と考えられる方には、大原美術館が所蔵する彫刻を重点的に観て歩くことをお薦めしたい。案外、これは美術館側でも気付いていない見方である。この美術館の彫刻コレクションは絵画ほどの点数はないにもかかわらず、結果として古今東西の作品がコンパクトに纏まっている。それに、絵画と違って館外で纏めて公開された前例はこれまでどうやらなさそうだから、倉敷まで行かないと見ることはできない。入口でロダンの《洗礼者ヨハネ》(1880)と《カレーの市民 - ジャン=ダール》(1884 - 86)が私たちを迎えてくれるのを

はじめ、本館にはブルデルの《ヴェートーヴェン像》やマイヨールのテラコッタ《坐せる女の像》などがある。なかでも、ブルデルの作品《年老いたバッカント》(1903)とジャコメッティの彫刻《キュビズムのコンポジション - 男》(1926)との比較は、抽象彫刻理解のとりかかりとして最適である。

今回千葉の展覧会に出品されるブルデルの《年老いたバッカント》(1903)の人体表現は荒く、各部位がうねり、沸き上がるように他と連関し合って、ひとつの身体を形作っている。では、それぞれの肉塊のうねりを立方体に置き換えてみるとどうなるか。身体の各部位の相関関係はより明瞭なものとなり、身体という小宇宙を構成する法則性のようなものが表現できはしないか - 1922年、パリでブルデルに師事したジャコメッティのキュ

ビズムによる作品《キュビズム的コンポジション - 男》は、まさにこのような手続きによって制作されている。それは彫刻が肉体の模造や建築物の装飾ではなく、一箇の自立した構築物であることを提唱したロダン以来の造形思考が獲得した新たな表現となった。ジャコメッティのキュビズムによる作品がある同じ部屋には、彼のよく知られたスタイルの作品《ヴェニスの子》(1956)が展示されている。これまで



アルベルト・ジャコメッティ《ヴェニスの子II》(1956)  
1956年 大原美術館蔵 ©JVACS, Tokyo, 2003

で綴ったように、ジャコメッティの彫刻をロダンや直接の師ブルデルからたどり直すと、このか細い彫刻が突発的に制作されたわけではなく、手法的にはロダンの流れを汲んだものであることが具体的に理解できる。

実は、日本にたくさんの美術館がありながら、たったこれだけの事を、作品を前にして考えられる施設はめったにない。

\*

いささか本館で長居をしてしまったと思ったら、気分を変えて民芸館と棟続きの東洋館に足を向けてみたらいい。多くの観光客は本館と分館の絵画にすっかり堪能してしまっているし、元気のいい学生たちもこの施設には余りやって来ない。大原美術館の穴場である。

東洋館に入ると、まず北魏時代の石仏《一光三尊仏像》に圧倒される。運搬のために左右脇侍や本尊の首と胴などがいくつかに分けられ、光背を欠いている点が惜しまれるが、首都圏や関西の施設でも滅多に見る事ができない、すばらしい石仏であ

る。他にも多くの仏頭類が展示されており、それらを見ているだけでもガンダーラで3世紀に制作された仏頭から中国・北齊の時代(6世紀)に制作された白玉像へと至るうちに、仏像が人間的な意志や表情を脱し、ある崇高な存在への表現へと向かった過程を学習できる。あるいは、やきものが好きな方だったら、後漢に制作され緑釉が掛けられている狗公のグッと足を踏ん張った愛らしさ・かわいらしさに目を細めるに違いない。

本館入口のロダンから始まり、東洋館の石仏類に至るまで、大原美術館の彫刻コレクションは、時代と場所を超えて人間が創り出した造形の素晴らしさを再確認できるいいコレクションとなっている。美術館施設のあちこちに点在する彫刻をめぐる散歩には、思いがけない出会いがある。それは、壁に掛けられた絵画を鑑賞することとは、また違った体験である。

\*

大原美術館の楽しみ方は人それぞれ、色々ある。美術館の近くに泊まれば、夜は瀬戸内の美味しい魚を食べる事ができる店があるようだ。残念ながら筆者はホテルに引き上げた後は、部屋で今回の図録制作準備が待っていたため、「舌の楽しみ」の体験談をここに綴る事ができない。こればかりは、皆さんで探険してみたいが。

学芸員 藁科英也

藤島武二《耕到天》1938年  
大原美術館蔵

## 大原美術館所蔵名品展

大原美術館は1930(昭和5)年、実業家・大原孫三郎氏によってわが国初の西洋美術館として岡山県倉敷に創設されました。これは大原家の援助を受けた画家・児島虎次郎氏がヨーロッパで収集した美術品を基とするものでした。公開された美術品は長い間、芸術家のもとより一般の愛好家たちにとって日本で接することができる数少ない近代西洋美術の精華として、「大原コレクション」の名で親しまれたのです。

大原孫三郎・児島虎次郎両氏の遺志を受け継いだ大原總一郎氏によって美術館は更に生かし現在では近代西洋美術に止まらず、近代日本洋画・現代美術・古代オリエント・東洋の古美術・民芸などを擁する総合的なコレクションを公開する施設として活動を続け、多くのひとびとを魅了し続けています。

本展覧会は大原美術館の草創期に公開されたモネやルノワール、マティスに代表される近代西洋美術と、コレクションの大きな柱のひとつである安井曾太郎・梅原龍三郎をはじめとする近代日本洋画の名品全65点を紹介するものです。

2003(平成15)年8月19日(火)-9月28日(日)

10:00-18:00 金曜日は20:00まで(入館受付は閉館の30分前まで)

【休館日】 毎週月曜日、但し9月15日開館(月・祝)、翌16日(火)休館

【入館料】 一般800(640)円

大学・高校生560(450)円

中・小学生 無料

( )内は団体30人以上の料金

【主催】 千葉市美術館 / 財団法人 大原美術館

【講演会】

「伝統と革新 - 大原コレクションに見る西洋と日本」

8月30日(土) 午後2時より

講師：高階秀爾(大原美術館館長)

「大原コレクションの魅力 - 個人的な回想から - 」

9月13日(土) 午後2時より

講師：小林 忠(千葉市美術館館長)

共に入場無料先着150人

千葉市美術館 11階講堂

## 天津市芸術博物館展

中国天津といえば日本では「天津甘栗」「天津丼」のイメージがあります。栗は周辺の河北省産のものを天津の港から日本に出荷したためその名があり、天津甘栗は中国元時代から首都北京の外港として栄えた天津の都市としての性格を表しているといえます。天津丼は昭和初期に日本で名づけられた名称で、直接天津との関係はありませんが、天津の名が親しまれていたからこそそのネーミングでしょう。

そのような日本ともなじみの深い天津は、現在中国の特別市として北京、上海に次ぐ重要な都市となっています。北京市に隣接し渤海湾に面して位置する天津市は今も港湾都市として栄えるとともに工業も発展し日本企業も多く進出しています。千葉市は天津市と昭和61年(1986)以来友好都市として訪問団を派遣しあい、スポーツ交流などを通じて友好を深めてきました。両市が友好関係を更に深め、両市民が文化を理解しあうことを願って、このたび千葉市美術館では天津市芸術博物館所蔵の名品を紹介する展覧会を開催いたします。



朱端《松院閑吟図》中国 明時代  
天津市芸術博物館蔵

書、文房具といった文物から、楊柳青で制作された年画、泥人形、凧、紙細工といった天津周辺地域の民間芸術品までを網羅しています。質量とも中国で最も優れた博物館の一つといえましょう。

今回の展覧会は日本人にもなじみの深い書画の優品を中心に、陶器、磁器、玉器、工芸品、民間芸術の作品全100点を展示します。日本での天津市芸術博物館所蔵品の紹介は過去にも行なわれてはいますが、全貌を紹介する展覧会としては日本初となる記念的な展覧会です。



《御用雲龍紋青花磁軸羊毛筆》中国 清時代 天津市芸術博物館蔵



天津市芸術博物館は1957年に開館した、中国でも有数の歴史を誇る博物館です。そのコレクションは中国全土の歴代芸術作品と天津地方の民間芸術品からなり、5万件余りの作品を所蔵しています。所蔵品の範囲は中国古来の陶器、磁器、玉器、銅器、書、絵画、敦煌文

《翡翠キリギリス白菜》中国 清時代  
天津市芸術博物館蔵

### 天津市芸術博物館展

2003(平成15)年10月11日(土)-11月24日(月・祝)

10:00-18:00 金曜日は20:00まで(入館受付は閉館の30分前まで)

【休館日】 毎週月曜日、但し10月13日開館(月・祝)、翌14日(火)休館

11月3日開館(月・祝)、翌4日(火)休館 11月24日(月・祝)開館

【入館料】 一般1000(800)円

大学・高校生700(560)円

中・小学生300(240)円

( )内は団体30人以上および前売の料金

## 千葉・美術・散歩 - 人・もの・自然 -



菱川師宣《天人採蓮図》江戸時代 千葉市美術館蔵

中国・天津市との交流展が開催されるのにあわせ、千葉と千葉市美術館を紹介するような所蔵作品展示でこれを迎えようと企画しました。千葉ゆかりの人・もの・自然の象徴をコレクションに探り、千葉を美術で散歩するように巡る展覧会です。

中国・天津市との交流展が開催されるのにあわせ、千葉と千葉市美術館を紹介するような所蔵作品展示でこれを迎えようと企画しました。

### 千葉・美術・散歩 - 人・もの・自然 -

2003(平成15)年9月21日(土)-11月24日(月・祝)

10:00-18:00 金曜日は20:00まで(入館受付は閉館の30分前まで)

【休館日】 毎週月曜日、但し10月5日(日)は電気点検のため休館、10月13日

(月・祝)開館、翌14日(火)休館

11月3日(月・祝)開館、翌4日(火)休館 11月24日(月・祝)開館

【入館料】 一般200(160)円

大学・高校生150(120)円

中・小学生100(80)円

( )内は団体30人以上および前売の料金

「大原美術館所蔵名品展」「天津市芸術博物館展」

入場の方は無料でご覧いただけます。

## 2003年アートの旅 - いろいろなワークショップが行われています

子供たちを対象に企画された「2003年アートの旅」(7月8日 - 9月15日)に関連して、さまざまなワークショップが開かれました。アーティスト、学校の先生たちや千葉大生の熱心なサポートで、子供たちがドキドキのアート体験をしています。その作品やワークショップの様子は、美術館1階のさや堂ホール、及び美術館入口の小庭に展示されていますので、是非のぞいてみてください。

### ダンボールカメラ・プロジェクト - 6月24日

佐藤時啓さんと花見川第一小学校6年生のみなさん



千葉市立花見川第一小学校の6年生58名が参加して、段ボールを使った原始的なカメラを作りました。仕上げたカメラのスクリーンに映ったお気に入りの画像を、一人一枚ずつデジタルカメラで撮影し、プリントしたものを、さや堂ホールに展示します。【講師：佐藤時啓氏(作家)】



いろいろな形のカメラができました。かぶってみると...?!?

体育館に集まり、ダンボールカメラを制作中



体と色で感情の表現されたかざぐるまが回ります。

### 風の丘、風の詩 - 7月7・11日

作間敏宏さんと桜木小学校5年生のみなさん

千葉市立桜木小学校の5年生を対象として、二日間に渡って行われました。かざぐるまには、みんなで作り上げた約束事にもとづいて表現された5色5つの感情が、盛り込まれています。加曽利貝塚公園内に設置された約800本のかざぐるまは、夏の青空の下、まるで虹の川のように見えました。【講師：作間敏宏氏(作家)】

5つの感情のイメージ  
 しあわせ...赤 / 「あ」 / パー  
 うれしい...黄 / 「い」 / チョキ / オーケー / 両手をあげる  
 心配...紫 / 「え」「お」 / つかむ  
 安心...緑 / まっすぐ立つ  
 悲しい...青 / 「う」 / ゲー / 上をむく / 下をむく

自分たちの作ったかざぐるまを地面に



### 中学芸員奮闘中

葛城中学校・都賀中学校・幕張中学校の美術部員のみなさん

市内3つの中学校の美術部員が4グループに分かれてテーマを決め、美術館所蔵品による展示を企画。千葉大生や美術館学芸員のお兄さん・お姉さん(おじさん・おばさん)がサポート役です。



#### 展示スケジュール

7月23日(水)~8月3日(日)

音浴的空間 - 音楽

8月5日(火)~8月17日(日)

オリジナルストーリー 主人公は君だ!

8月19日(火)~8月31日(日) Internet・陰+陽

9月2日(火)~9月15日(日) (仮称)TVゲーム

展示室で展示のイメージを広げます。



収蔵庫での作品選びに熱が入る

## 葛城中学校ワークショップ2003 - 6月26日 - 継続中

Pheromone(フェロモン)と葛城中学校美術部員有志のみなさん



美大生を中心とするグループ Pheromone と葛城中学校の美術部員が集結。地元の商店街にくり出しているのぼりを集め、裁断してさまざまな製品に変身させました。出来上がったはっぴをはおり、八月には夏祭りに出没予定。すぐに捨てられてしまうモノの、新しいリサイクルの提案でもあります。



ニュー・ファッションで街を闊歩

## 花はどこへ行った - 7月10日

大巻伸嗣さんと都小学校6年生のみなさん



千葉市立都小学校の6年生を対象としたプログラムです。自分だけの花を想像して描き、厚紙で型を作って、さや堂ホールに敷かれた黒フェルトの道に小麦粉の花を咲かせました。会期中公開されているこの花のじゅうたんは、時間の経過や、その上を歩くことによって、少しずつ姿を変えていくこととなります。

【講師：大巻伸嗣氏（作家）】



たくさんの花が咲きました。

切り抜いた型に小麦粉を盛ると...

## 「線をつくる - すいへい線・まじわらない線・みんなで作る線」 - 8月2日

参加者 小学生（自由）

鉛筆、ペン、クレヨンなどを持ってきてさや堂ホールに集合！  
みんなで引いた線がアートになりました。

### 2003年アートの旅

2003(平成15)年7月8日(火)-9月15日(月)

10:00-18:00 金曜日は20:00まで(入館受付は閉館の30分前まで)

【休館日】 毎週月曜日 9月15日開館(月・祝)

【入館料】 一般200(160)円

大学・高校生150(120)円

中・小学生は無料

( )内は団体30人以上の料金

\* 「2003年アートの旅」およびc-projectのイベントは、Work in Chiba Art Network Project (通称：Wi-CAN Project)の一環です。

## おどる\*おどる 南村千里と緑町の子どもたちによる ダンスワーク - 7月20日 (c-project 主催)



美術館所蔵のミッシェル・ヴェルジュの作品「上から/下から」の光と共に、子供たちがダンスを披露。南村千里さんのコミュニティ・ダンスのワークショップを通して子供たちが創り上げた作品です。



展示室で考える

## 今年も実習生がくる

美術関係を志す学生なら「博物館実習」というのをきいたことがあるでしょう。夏休みも後半、展覧会づくりの話は休みにして、「実習」のはなしをします。この実習とは美術館や博物館の学芸員となるための資格取得に必要な大学の課目で、多くの大学では学生を実際に博物館に派遣する方法をとっています。

千葉市美術館にも毎年夏休みになると10数人の学生がやってきます。この実習、雑務の絶えない美術館にとっては結構負担となる行事で、学芸員によっては「何で貴重な時間を削って出来の悪い学生の相手をしなくてはならないのか」「毎年10人からの学生を教えて、その中から学芸員になったのがいるという話を殆ど聞いたことがない」といったようなシロモノです。私も担当になった当初は少々気が重かったものです。いまの時代、学芸員への道はイバラの道。強力なコネでもあれば別でしょうが、いくら資格を取って大学院を出ても、百人に一人も学芸員には就業できないのが現実です。まず、有名無実化している学芸員資格制度を変えるのが先ではないか、と考えたくもなりました。しかし、数年にわたって学生諸君と付き合っていると、学生諸君は、学芸員は無理だなんてことは最初から分かっている、それでも出来ることなら何らかのかたちでアートと関わる生活を送りたいと考えている、だから、そのために、本物の美術の現場の緊張感を体感したいんだという真意が感じられるようになりました。それに最初想像してたのと違って、学生たちは実際の業界の厳しさを学校でおしえられ、よくしつけられています。非営利団体やボランティアの立場で美術にかかわりたいと最初から明言する学生がいるのも最近の特徴です。どんな方向からにせよ、美術に触れてゆきたいと思う気持ちは大切にしたい。だから実習も、形骸化した資格発行のための過程ではなく、着実な芸術支援者を増やすまたとない機会とも考えたらいい。周知の通り、今日の日本社会で芸術の立場はかなり危ういから。

そういう訳で私も足りない知恵を絞って学生諸君のために企画や広報の経験談も惜しみなく口伝しました。作品の展示もハラハラしながら随分手伝ってもらいました。

プロの仕事の真剣さを見せること。学芸員、美術館という問題ではなく、僅かな期間を通じてながら私たち芸術を普遍化する仕事の意味の一端が分かってもらいたいのです。だから学生諸君も博物館実習を通じて、臆せずどんどん疑問を晴らして欲しい。そして、人生にとって芸術とはオプションではなく、人格形成にもかかわる問題ということを認識して欲しいのです。

半田滋男（和光大学芸術学科助教授、元千葉市美術館学芸員）

### 「美術館ニュース」編集担当より

夏休みをどのようにお過ごしでしょうか？空調の効いた美術館で一日ゆっくり、作品に囲まれながら過ごしてみるのはいかがですか？

最近、美術館では、子どもたちの活発な声が聞こえるようになりました。今年の美術館の目標のひとつである「子供達を美術館へ！」への取り組みの成果が少し見えてきたように感じます。7月から加わった新たな仲間と共になれないワークショップにあたふたする日が続いており、試行錯誤の展覧会は現在も進行中です。ご批判等もあるかと思いますが、大原美術館所蔵名品展と共に、小中学生、当館学芸員の奮闘記をご覧ください。

来館者の皆様、読者の皆様からのご意見もお待ちしております。

### お詫び

5月に送付あるいは配布致しました「展覧会のご案内」リーフレットの休館日に誤りがありました。10月15日(電気点検日)とありますが、10月5日となります。深くお詫び申し上げます。訂正させていただきます。

## 千葉市美術館

お問合せ：043-221-2311 ホームページ：<http://www.city.chiba.jp/art>

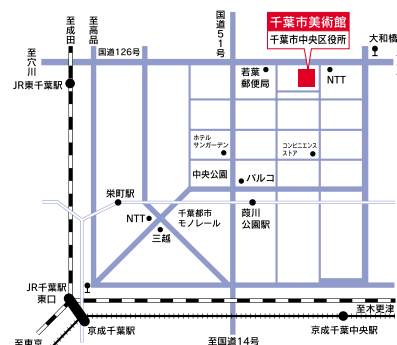
JR千葉駅東口より

徒歩約15分

千葉都市モノレール県庁前行「霞川公園」下車徒歩5分

バスのりば⑦より京成バス「大和橋」下車徒歩2分

京成電鉄千葉中央駅東口より徒歩約10分



千葉市美術館  
Chiba City Museum of Art

【編集・発行】千葉市美術館 〒260-8733 千葉県千葉市中央区中央3-10-8  
TEL. 043-221-2311 FAX. 043-221-2316  
Chiba City Museum of Art  
3-10-8 Chuo, Chiba 260-8733 Japan

【発行日】2003年8月15日

【制作・印刷】株式会社プリンテックメディア